

## 熱い思い

校長  
有坂 俊吉

ラグビー後援会の皆様には、日ごろより本校及びラグビー部の活動に対し御理解と御協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

私は、かつて平成三年度から十五年度までの十三年間、機械科の教員として勤務しておりました。今年度から十四年ぶりの本校での勤務ということになりました。校舎も新しくなりましたが、私自身も心新たに頑張りますので、御指導よろしくお願いいたします。

さて、本校に赴任してから各支部や各部会の同窓会にこれまで六回ほど出席させていただきました。どこの会場でも母校に対する熱い気持ちを伺うことができました。そして必ず話題になるのはラグビー部の今年度の戦績や花園出場についてであり十六回目の全国優勝への期待の大きかったです。改めて、本校におけるラグビーの存在を認識させられました。

ロンドンで開催された世界陸上五十キロ競歩における日本勢の活躍が大きく報道されました。本校OBの小林快選手は五十キロ競歩挑戦二回目で銅メダル獲得の素晴らしい結果でした。先日、全校生徒を前にしての報告会を開催しました。高校時代の小林選手は、インターハイ五千メートル競歩では二位、全国高校駅伝では第六区区間十七位など歩くと走るのいわゆる二足のわらじ状態だったそうです。かなり珍しいそうです。そして大学進学後競歩に専念するようになったそうです。昨年

秋の全日本五十キロ競歩に初めて挑戦し優勝。世界陸上代表に内定しました。そして、今回の世界陸上では前述のように二回目の挑戦で銅メダルという文字どおりの快挙を成し遂げました。報告会の中で小林選手は、「メダルを獲得できたことはうれしい。だが、上に二人いて日本勢での一位も取れなかった。表彰式はあくまでも一位になった選手のためのものだと思った。東京オリンピックの表彰式では日の丸を掲げることができるよう頑張る。」との

決意表明をしてくれました。また、在校生には「今、何が必要かを考えて取り組むことで成果が出る。」夢に向かってがむしやらに取り組んだことが武器になり、決めた道でもきつと花が咲く。」との小林選手の熱い思いのこもったメッセージもいただきました。生徒諸君もいい刺激を受け、次に向かうための、あるいは向かうときの参考にしてくれると思います。

終わりに、部員たちは二年連続の花園出場及び十六度目の全国優勝を目指し、日々厳しい練習を重ねています。活躍を期待してくれている多くの同窓生や関係者の熱い思いに応えるべく一層の精進に励みます。後援会の皆様の変わらぬ御支援、御協力をお願い申し上げます。

※舞踏の創始者として世界的に有名な土方巽は本校のOBであります。ラグビー部にも一時在籍していたそうです。ラグビー部の一環として遺品のベレー帽、カフスボタン、ワイシャツの3点を寄贈していただきました。ヒストリーホールに展示しております。

## 必勝を期して

ラグビー部長  
草皆 和幸

日頃よりラグビー後援会の皆様には多方面より温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年度、秋田工業ラグビー部は、花園予選決勝で秋田高校に三十八対十三で勝利し、東のBシードとして、三年ぶり六十六回目の花園に出場することができました。花園の初戦では、兵庫県代表の報徳学園高校と対戦しました。前半、緊張からかトライを重ねられ、苦戦したものの後半は立て直し、連続トライを決め、追い上げ、ノーサイド寸前に相手ゴールラインまで攻め込んだものの追いつくことができませんでした。十九対二十四で敗れ、残念ながら皆様のご期待に添えることができませんでした。しかし、この花園における貴重な経験は、一人ひとりを大きく成長させてくれました。この敗戦を胸に秘め、新チームがスタートしました。二月に行われた東北新人大会において、決勝で仙台育英を三十六対五で破り、二年連続の優勝を果たすことができました。三月に行われた、全国選抜大会の予選リーグでは、大阪桐蔭高校、東海大相模高校および大分舞鶴高校と同じブロックとなりました。しかし、結果は予選リーグ三戦全敗と主将の児玉を欠いたとはいえ、非常に残念な結果となりました。ここから這い上がり、必ずや花園で秋

田工業の名前を轟かすことができるよう精進していきます。

さて、今年度のチームは男子部員が三年生二十名、二年生十七名、一年生十五名、女子部員が二年生二名、一年生一名、総勢五十五名で十六回目の花園優勝を目指し、一丸となって切磋琢磨しております。

夏期休業中の強化練習では、多数のOBの胸を借りることができ、充実した時間を過ごすことができました。

その後に行われた菅平合宿では、大阪桐蔭高校や國學院久我山、天理高校といった全国強豪校との試合を行うことができました。どのチームも攻撃の展開が速く、全国で勝利するためには、この展開にも負けないディフェンスをしなければならぬと強く感じました。この菅平合宿を通じて対戦相手から吸収したものをしっかりと出し切ることができれば、秋田県内での優勝はもろろん、全国でも上位に進出することができると強く確信しました。

あつという間に時間が過ぎ去り、中央支部新人も終了しました。本番である、花園予選まで練習できる日数もあと数えるほどの日数しかありません。まずは花園予選において、必ずや勝利を掴み取ります。そして、聖地花園において16回目の優勝という新たな歴史のページを刻むことができるよう一生懸命頑張っていきたいと思っております。

最後となりましたが、伝統ある秋田工業高校ラグビー部を土台となつて支えてくださっている後援会の皆様には今後とも変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。